

3. 高等植物には  $B_{12}$  は殆んど含まれないとされているが、本方法によりビタミン菜、コンフリー、タンポポ、セリ等には動物、海草類より少ないながら  $B_{12}$  の含有を認めた。なお二、三の材料については  $B_{12}$  含有量と植物体の部位、或は採取季節との関係も検討した。

#### A—66 動植物材料中のビタミン $B_{12}$ 含有量の検討

岡山就実短大 ○長尾 金子  
窪田 良子  
岡山大養教養成 馬場 敦子  
岡山大医微生物 松浦 慶之

1. 演者等は *L. leichmannii* を用いたバイオアッセーによる動植物材料中の  $B_{12}$  定量法を検討し、ある種の材料には菌の発育を抑制し、定量を妨害する物質が存在するのでこのような物質を除去した後定量する改良法を考案し、第20回ビタミン学会においてすでに報告した。今回は引きつづき本方法を用いて各種動植物材料について  $B_{12}$  含有量を検討することとした。

2. 材料を常法に従い KCN 含有熱水で抽出した後、鉛等の重金属塩を加えて妨害物質を沈澱、除去するか、または沃度を添加して破壊した後、定量用培地に加え、菌を接種してバイオアッセーを行なった。

3. 1. ニワトリ、ウズラ、アヒル、ハト等の鳥類血漬、カエル、ウナギ、ウズラなどの肝臓、魚シラコ、マコ等には妨害物質が存在し、本方法によると従来の方法に比し高い  $B_{12}$  定量値が得られた。2. コンブ、ワカメ等の海草類には妨害物質が存在し従来の方法では測定困難であるが、本方法により測定可能となった。又これらの材料の貯蔵方法と  $B_{12}$  含有量の関係も併せ検討した。